アルインコ・杉孝が製品ＰＲ動画共同作成

「アルバトロスの挑戦」

仮設機材の製造販売大手のアルインコは「アルバトロスの挑戦」と題した製品ＰＲの動画を作成し、22日から動画共有サイト「Ｙｏｕｔｕｂｅ」で公開している。仮設機材レンタル大手の杉孝（本社＝横浜市神奈川区、杉山信夫社長）と共同で作成した。動画は実写と3Ｄを駆使し、主力製品でもあるクサビ緊結式足場「アルバトロス」の特長や隠れた凄さを約5分でまとめている。

同製品は杉孝と共同で開発。安全・安心をキーワードに、従来式の足場よりも使いやすく、便利で多目的に使えることをコンセプトとし、2010年に誕生した。アルバトロスの採用実績は全国の大小含めた建設現場で3万箇所以上に達するという。

昨今の建設現場では、アルバトロスをはじめ、安全性や施工性などに優れた新型足場の普及が加速している。従来はカタログや展示会などでのＰＲが中心だったが、高強度や豊富なオプション部材、さまざまな建設現場で対応できる柔軟性など、アルバトロスの特長を一段とアピールするため、今回の動画作成へと至った。

今後もゼネコンや鳶業者、レンタル業者などをターゲットに拡販していく意向だ。ＵＲＬは以下の通り。ＱＲコードでの読み込みにも対応している。

ＵＲＬ＝https：//www.youtube.com/watch?v=12GSMCHPfJA&t=3s

アルバトロスの

挑戦！

ＱＲコード

東芝機械製の門型複合加工機「ＭＰＣ−4180Ｂ」㊤と東芝機械製の横中マシニング「ＢＴＤ−110, Ｒ16」

向け出荷経験も豊富だ。

大谷加工は堀精工の事業を承継することで、堀精工に委託していた高精度機械加工を内製化し、需要家ニーズが高まっている製缶から機械までの一貫加工体制を一段と強化。今後は那須工場（栃木県大田原市）と連携し、加工分野でシナジー発揮を目指す。このため、4月以降で両社従業員の配置転換を実施し、加工技術・ノウハウを横展開する。「堀精工の従業員数を30人前後に倍増し、事業拡大を推進する。将来的には大谷加工那須工場の機械加工部門を堀精工に集約し、機能特化による加工効率化を図る」（大谷裕一・大谷加工常務取締役）。

また、堀精工の大谷加工グループ化に伴い、大谷加工川崎配送センター（川崎市川崎区）を4月19日付で閉鎖し、堀精工内に南関東配送センターを4月22日付で新設する。大谷加工は関東配送センター（埼玉県白岡市）を設置しており、圏央道を通じて両センター間のアクセスが容易になることから、効率的な配送などを実現し、需要家へのサービス向上につなげていく方針だ。

（濱坂　浩司）

いと考えて
こって良い

積が1672平方㍍の鉄骨造2階建て。1階

若尾直社長）は、関西エリアの物流拠点とし

月8日から、

関西エリアで年々増加する販売量に対応するもので、センターの延べ床面積は約5000平方㍍。物流の対応

ンセンター2階）
▽電話＝072−939−0292
▽ＦＡＸ＝072−939−0295

亜鉛

東
htt

で第119回定時株主総会を開催した。議決

環境省は28日、自社社員を環境人材に育成していく取り組みを行う企業を表彰する「環境　人づくり企業大賞2018」について、受賞企業を決定した。このうち鉄鋼関係からは、奨励賞（中小企業部門）を梅南鋼材（大阪府）が受賞した。

長）▽退任（常務取締役）
▽顧問（常務取締役［ＬＥＯ事業本部長］）住江伸吾
▽〃（取締役［技術本部副本部長兼同材料ソリューション事業部長］）森川裕文
▽退任（〃［非常勤］）寺尾泰昭

時間かけ事業計画を見直す

全特協

全日本特殊鋼流通協会（会長＝佐久間貞介・佐久間特殊鋼社長）は27日、都内で理事会を開催し、2019年度の事業計画案や収支予算案などの各議案を審議し、承認された。

同日夕に行った記者会見では2019年度第7回定時総会が、6月17日に名古屋市内で開催される旨を紹介。

また18年の理事会において、会費値上げに伴ってゼロベースで事業計画を立てることを検討テーマとし、アンケート調査を行った結果、1年もしくは2年程度の時間をかけて事業計画を見直す意見が大勢を占めたことを踏まえ、19年度の事業計画案と収支予算案を策定、承認されたもの。

会費値上げ後に生じる剰余金は年間1850万円になり、毎年度発生する赤字額への補填費用や30周年記念事業用の積立金、本部事業費や8支部の予算増額費用等に充てることなどが報告された。

会見のもよう
（中央が佐久間会長）